

第 1 回 恵那市環境審議会 会議録

日時：令和 7 年 7 月 16 日（水） 午後 1 時 30 分から
場所：恵那市役所災害対策室 A・B

- 1. 開 会
- 2. 委嘱書の交付
- 3. 水道環境部長挨拶
- 4. 委員自己紹介・事務局紹介
- 5. 環境審議会について 資料 1
- 6. 会長・副会長選出・挨拶
- 7. 議題
 - (1) 第 2 次恵那市環境基本計画【後期】について 資料 2
 - (2) 恵那市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】の進行管理について 資料 3
 - (3) 環境施策の取組について 資料 4
- 8. その他
- 9. 閉会
- 10. 会議の公開・非公開・・・公開
- 11. 出席者の数・・・・・・12 人中 9 人（以下のとおり）

氏名	選出団体等	備考	出欠
竹島 喜芳	中部大学	会 長	出席
柘植 清成	恵那市環境対策協議会	副会長	欠席
渡邊 康正	地域自治区会長会議		欠席
加藤 規久	恵那商工会議所		出席
渡會 充晃	恵那市恵南商工会		欠席
下畑 茂	恵那市校長研修会		出席
鈴木 雅博	恵那市農業振興協議会		出席
小椋 正明	えなの森林づくり推進委員会		出席
足立 美保子	NPO 法人市民エコ会議		出席
坪井 弥栄子	恵那市子ども・子育て会議		出席
猪岡 貴光	環境省中部地方環境事務所		出席
伊藤 明	岐阜県恵那県事務所		出席

- 12. 傍聴者の数・・・・・・2 人

【議事録要約】

■議題（１）第２次恵那市環境基本計画【後期】について

- ・事務局から、計画の進行管理状況について説明し、委員から質問・意見があった。
- ・「基本理念にある交流都市」について、市内交流か市外交流かという質問があった。
- ・地域間連携やネットワークづくりの提案があった。
- ・「脱炭素取組市民割合」の調査方法について質問があった。
- ・脱炭素意識が高い市民が回答しているため高い割合が出ているのではないかとの意見があった。
- ・「民有林間伐整備面積」の目標値と現状との乖離について質問があった。
- ・不法投棄対策についての具体的な効果（検挙例の有無など）について質問があった。
- ・業者による産業廃棄物の不法投棄の有無について質問があった。
- ・地域に設置されている資源回収拠点の数値表現の整合性について質問があった。
- ・RDFのリサイクル率の算出方法に対する疑問と見直しの提案があった。
- ・資源回収団体登録の減少とその財源確保への懸念、地域との連携の重要性についての意見があった。

■議題（２）恵那市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】の進行管理について

- ・事務局から、計画の進行管理状況について説明し、委員から質問・意見があった。
- ・排出量削減のグラフに経済成長や人口減少が加味されているかどうかの質問があった。
- ・削減シナリオと地域振興施策との整合性についての意見があった。
- ・V2H 補助金の継続有無と省エネ事業参加率の母数の扱いについて質問があった。
- ・指標の母数見直しの必要性について意見があった。

■議題（３）環境施策の取組について

- ・事務局から、計画の進行管理状況について説明し、委員から質問・意見があった。
- ・廃食用油の回収実績と周知方法に関する質問と意見があった。
- ・生ごみ処理機の導入状況について質問があった。
- ・サステナブル燃料のイベント活用と、ゴミ処理施設の故障に関する設備管理や他市への処理委託のコストの明示を求める質問があった。
- ・学校教育への還元と子どもを通じた啓発の重要性についての意見があった。
- ・G-クレジットとバイオディーゼル燃料の普及状況について質問と意見があった。
- ・SDGs 交流会の拡大（小中学校の参加）について提案があった。
- ・事業者による環境取組が指標に反映されていないことの問題提起と改善提案があった。
- ・地元資源を活かしたウッドマイレージや教育・広報の重要性に関する意見があった。

■その他

- ・事務局から、LED 照明への切替や脱炭素スクールの案内、G-クレジットの販売開始について周知し、委員から質問・意見があった。
- ・G-クレジット購入が県入札で加点になることに関連し、市でも加点制度の導入について提案があった。

【議事録詳細】

1. 開 会

■進行（事務局） 定刻となりましたので令和7年度第1回恵那市環境審議会を開会します。本日の会議は環境基本条例第15条第3項の「審議会は環境行政に関する重要事項について必要があると認めるときは、市長その他関係機関に助言及び勧告ができる」の規定に基づき助言を頂きたいと考えております。

本日は委員9名出席で3名欠席。環境基本条例第19条第2項の規定により、会議が成立していることを報告します。この会議は公開とし、資料、議事録は市ウェブサイトで公開すると共に、名簿も公開させていただきます。

2. 委嘱書の交付

■進行（事務局） 委嘱書は本来市長から一人一人へ渡すところですが、本日は他の公務のため出席できません。また、時間の都合上、委嘱書を机上に配布しましたのでご確認をお願いします。任期は本日から令和9年3月31日までとなります。よろしくお願いいたします。

〔 委嘱書の交付 〕

3. 水道環境部長挨拶

■進行（事務局） 水道環境部長がご挨拶を申し上げます。

〔 水道環境部長 挨拶 〕

■進行（事務局） ありがとうございました。

4. 委員自己紹介・事務局紹介

■進行（事務局） 委員の皆さまに自己紹介をお願いいたします。

〔 委員、自己紹介 〕

■進行（事務局） ありがとうございました。続きまして、事務局を紹介します。

〔 事務局、自己紹介 〕

5. 環境審議会について （資料1）

■進行（事務局） 環境審議会とはどういう組織であるかなど事務局より説明いたします。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■進行（事務局） 質問はございませんか。

〔 意見なし 〕

6. 会長・副会長選出・挨拶

■進行（事務局） 会長、副会長を選出させていただきます。環境基本条例第18条第1項に、会長と副会長は委員の互選により定めることとなっています。選出方法について、意見があればよろしくをお願いします。

■委員 事務局案はありますか。

■進行（事務局） 事務局案のご意見がありましたので、会長に中部大学の竹島委員、副会長に、本日は欠席だが、恵那市環境対策協議会の柘植委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。ご承認いただける方は拍手をお願いします。

〔 拍手多数 〕

■進行（事務局） 会長に竹島委員、副会長に柘植委員が選出された。会長は会長席へご移動をお願いいたします。

会長から挨拶をお願いします。

〔 会長 挨拶 〕

7. 議題

（１）第２次恵那市環境基本計画【後期】について （資料２）

■進行（事務局） 以降の議事進行は環境基本条例第 19 条第 1 項により会長が議長として議事進行をお願いします。

■議長（会長） 議題（１）第２次恵那市環境基本計画【後期】の進行管理について事務局から説明をお願いします。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■議長（会長） 意見はございませんか。

■委員 資料 3 ページの基本理念、将来像について。「交流都市」というのは、市の中で交流なのか、近隣の自治体等との交流も想定しているのか確認させてください。

■事務局 地域関係なく、市外の人に多く訪れてほしいということです。

■委員 内にこもっていると解決しないものも多い。気候変動もそうだが、地域を超えた連携が必要になる。我々も地域間交流を推進し、ネットワークづくりを進めている。手助けできることがあれば提案（相談）いただきたい。

■委員 資料 7 ページ、基本目標 3、「脱炭素社会の実現に向け二酸化炭素などの排出を減らす取組について何らかの取組をした市民の割合」。目標値 70%に対しここ 3 年全て 140%超え。意識が高い、すばらしい数値だと思うので、集計方法を教えてほしい。

■事務局 毎年、環境課で市民 2,000 名を対象にアンケートをダイレクトメールで送っています。設問は 25 問あり、その中で脱炭素の取組をしているかという設問に回答した人をカウントしており、省エネでスイッチを消すということなどを含めています。1 つでもしたらカウントして集計しています。

■委員 アンケートに回答するのは行政に興味があり意識の高い人なのでこういう数値だと思う。逆にこの 3 年間あまり変わらないので、今後もっと増えるとすばらしい。

■委員 資料 6 ページ、目標指標について。一番上の、市内民有林間伐等整備面積。令和 6 年度 64.5%達成、その目標値が 5,400ha。令和 3、4、5 年の推移からすると 6、7 年度にかなり乖離がある。この目標設定について何か考えるところがありますか。

個人的な関心事であるが、資料 15 ページの令和 6 年度取組で不法投棄の対策について。監視カメラ等を設置して対策しているということだが、これにより不法投棄者が見つかつ

たり不法投棄が少なくなったりというのはありますか。

■事務局 間伐面積目標は総合計画の目標の数字になっています。5年前に策定したときは、年間800haを目標にしました。現状値で、基準年の令和元年593haでしたが、切り上げて600haで、この年から国で環境条例を活用した新たな制度ができ、それにより200haできると見込み、年間800haの目標を立て、その5年後で、5,400haの目標にしています。ただ、実際には、木の年齢がかなり上がってきて、今までは間伐して出すのにお金がかかるので伐り捨てで、かなりの面積ができたが、現状は利用しないともったいない木が多いので、木を出すことまで含めて間伐とすると、どうしても面積ができない。

もう一つは、新たな制度で未整備の森林の管理を市に任せていただき間伐をしていこうと、目標200haとしたが、調査に入ると面積がそこまで集約できない。60～70haが年間集約できる面積。それで目標に達しておらず未達成になっている。次回総合計画では目標設定を現状と合わせて考えていきたい。

■事務局 不法投棄について。監視カメラを設置し、令和5年度、監視カメラに不法投棄者が映っており、警察に指導してもらい、撤去してもらったことがあります。その後は具体的な例はないですが、監視カメラを設置することで防止に役立っていると考えています。

■委員 傾向として、よくあるのは、家の粗大ごみを捨てる場所がなくてやっている場合と、産業廃棄物を組織的にやっているものがある。恵那市は後者のような業者によるものがありますか。

■事務局 業者は不法投棄をするのはあまり例はない。産業廃棄物の投棄に当たるのではないかとということで、恵那県事務所環境課と一緒に指導に行くことはあります。数は多くない状況です。

■委員 どんな不法投棄か気になったので。

■委員 産廃の不法投棄は県の担当になる。恵那地域では産業廃棄物の不法投棄で大規模なものはない。小規模な建設系の廃棄物の不法投棄、もしくは自分の土場にたくさん置いていて保管しているのか投棄なのか区分できないもので、たくさん保管し過ぎているという苦情はあり、随時対応している。

■委員 資料6ページ、回収拠点の設置地域数。令和6年度が11地域で、「※既存拠点があって全地域の設置ができている」と書いてある。だったら13と書けばいいのではないかと。資料13ページ、回収拠点の回収量の推移には令和6年度12か所となっている。理由はありますか。

■事務局 恵那市は13地域あり、資源回収拠点は12か所ある。12か所を地域で落とし込むと11地域。13地域で、残り「既存」が2あるが、資源回収拠点は市と地域が主導でやって、「既存」は民間団体が運営しているもの。拠点だけで見ると全地域できているが、市主導の拠点は全地域ではない状況です。

■委員 もう一点、資料 12 ページ、ごみ処理量と再生率があり、エコセンターで R D F が 6784 トンできていて、 B/A で%を出しているが、R D F はエコセンターに持ち込まれた可燃ごみから作られていると思うが、そこで燃えないものは取り除いて作られている。R D F を作るとき乾燥して作っているの、単純にできたものの重さで言うと、乾燥して飛ばした水分量があるので、実際にはリサイクル率はもっと高くてもいいのではないか。水分はリサイクルしてないと言えればそれまでだが。実際にできた量を分子にすると、もったいない計算なのではないか。感想です。

■委員 資料 11 ページ、地域資源回収拠点。11 か所で、1 つは私たちの三郷町で、一般社団法人の福祉団体がやっているところがある。もう十何年やっているのもそのままそこでやっている。この下に、資源回収団体登録が、小中学校の P T A など 5 団体が未登録となっている。三郷小学校関係で話を聞いたら、少子化で P T A 役員の成り手がなくなっている。仕事が多くなってしまうので。資源回収を 1 回はコンテナを置いてやり、1 回は回収すると言っていた。これからもっと小中学校団体の登録が減ると心配する。

それから、三郷は西中学校と三郷小学校の資源回収がある。年に 4 回ある。その月に集まった資源回収の場所のものは全部各小中学校へ上乗せして持っていってもらっている。資源回収の財源はすごく大切だと西中学校で聞く。部活や花壇清掃などがある。お金がいくらあっても足りない。登録が多くなると、その財源を考えることも必要になる。地域に 13 か所あるが、地域との繋がりが大事なので、そういう方向でやっていただけるといいと思う。意見です。

■議長（会長） ほかにあるか。

〔 意見なし 〕

（２）恵那市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】の進行管理について （資料 3）

■議長（会長） 議題（２）恵那市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】の進行管理について説明をお願いします。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■議長（会長） 補足する。資料 3 ページ。平成 27 年の「パリ協定」とある。元々 1990 年代前半にあったリオデジャネイロのサミットで国際的に削減の取組をして京都議定書が決められ、それが期間が終わったのでパリ協定になった。資料 6 ページ、日本は省エネをしまくってこれ以上削減のしようがなくなったところ、森林がたくさんあるので森林の吸収量を認めてくれと国際的に言ったが、計画的に管理をして吸収量を増やしているなら認め

るということになった。ここで森林の吸収量がだんだん増えているが、森林があるだけでは増えない。手を付けていない森林の管理をすることで初めて緑色の量が増える。

資料14ページ。G-クレジットについて。どう手を入れるか。今、日本で間伐するには、計画を出して計画が認められたら補助が出るという枠組みになっている。管理している森林について森林経営計画を立てているのでこの吸収量は認められるとなっている。岐阜県は独自予算で国の計画とは別の計画で動いているので、G-クレジットは岐阜県の単独補助金で動いている森の管理に対してクレジットを認めるもの。森林で吸収量を増やして脱炭素を目指す動きがあるので紹介させていただきます。

皆さまからご意見はありますか。

■委員 資料6ページのグラフの排出量。だんだん減っているが、削減の前提として、経済成長や人口減なども加味されているのか。それとも現状のままという前提で出しているのか。

■事務局 2050年のカーボンニュートラルはシナリオということで描いています。そこには人口減少や産業の担い手減少も加味しています。

■委員 一方で地域振興、まちづくりをやっていて、諦めて少なくなっていく前提でやると、それと矛盾するところが出てくるかと思う。感想として。

■委員 資料13ページ、令和6年度 of 取組について。赤枠のV2Hについては、2030年度の目標値を達成したということだが、達成したので補助金はもう出さないのか。

もう一点。資料9ページ。4段目と6段目。4段目の省エネ取組ネットワーク事業参加率351社という母数、その下、2,573社と、変わっていないが、本来変わるものなのか。

■事務局 V2Hの補助金は、目標は達成しているが、引き続き、担当としては、財政当局等にも折衝して継続していきたいと思っている。2030年に10件という目標だが、さらなる高みを目指したい。太陽光発電の設置数も、お金がかかると思うので、継続した支援をしていきたい。

事業者数。市内事業者の数には増減があるが、基準年の数字を母数としてそれを変える
と進捗が評価できないと思うので固定している。

■委員 両方とも市内企業100%。351社が355社の実態の母数になったとして、351社が参加したとしたら、本来90何%になる。できれば母数をしっかり調べて変えた方がいいと私は思う。

■事務局 集計方法を再考して見直しについて検討してまいります。

■議長（会長） ほかにご意見はありませんか。

〔 意見なし 〕

(3) 環境施策の取組について (資料4)

■議長(会長) 議題(3) 環境施策の取組について。説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■議長(会長) ご意見はございませんか。

■委員 ケイナククリーンの廃食用油の回収について。恵那市の廃油の回収の現状はどうか。一般にはまだ廃油は捨てる人が多い。こんなに利用価値があるのでもっと宣伝するといいと思う。

■事務局 ここ数年は伸び悩んでいる状況です。1年間で3,000リットルぐらいで前年、前々年は推移しています。平成30年ぐらいは5,000リットルぐらいあった。揚げ物をする人が減ってきているのだと思うが、現状はつかめていない。市としてはできるだけ多くの人に出していただきたいので、本年4月より、今まではペール缶に入れていただいて回収していたが、併せて、飲料用のペットボトルに入れて置いていってもらう方法も行なっている。始めたばかりなので周知が十分かどうか分からないが、しっかりした統計ではないが、回収業者によるとペットボトルで2、3割あるとのこと。最近は半分ぐらいだとも聞く。少しでも増えるといいと思っています。

■委員 昨年の会議のとき環境課が始めると言っていた生ごみ処理機はどうなったか。

■事務局 まだ始まっていない。今、財政当局等と内部調整をしている。予算折衝ができればやっていきたい。不透明な状況ですが、できる限り取り組みたいと考えています。

■委員 資料4ページ、サステナブル燃料のイベントについて。恵那市ではWRC(世界ラリー選手権)もあるし市のラリー課もあるので、ブランディング化するには非常に良い事業だと思う。引き続きどんどんこうしたことをしていただきたい。

資料2ページ、ごみ処理施設の故障について。モーターの故障ということであったが突発的なものなのか、我々民間の設備だと、自動車部品を作るなら何千個作る、何時間動かすことでメンテナンスするという取り決めをしてから作るのだが、そういうメンテナンスの状況が管理されていたのか。

もう一点、ごみが減って良かったというのではなく、東濃4市に協力いただいたコストが分かれば。税金なので、出してほしい。

■事務局 故障したモーターは、ピットに持ち込まれたごみを破砕機で砕き、乾燥の機械にかけ、その後RDFを成型するために、地下から4階までベルトコンベアで送る。そのベルトコンベアの最上部にあるモーターが故障しました。エコセンターにはたくさんのモーターがありますが、日頃のメンテナンスは職員が、異音がないかなど、目と手で点検

していました。モーターは汎用品なので、故障したら交換します。たくさんあるので、全てについてストックを持っていることも財政的に課題がある。代用品の入手に20日ほどかかり、昨日、修繕が完了して本日から稼働しました。

東濃4市での処理費は、委託料として払います。コストはそれぞれ違い、処理を停止している間のエコセンターとしての化石燃料を使用していないこととの相殺もあると考えています。他市への委託もまだ少し継続するので、次回審議会でお示ししたいと思います。

■委員 教育関係の立場で参加して、学んだこともあり、感想のようなことを述べる。

市内で何が行われているかを知ることができた。校長会も含めて教育機関に還元したい。市の環境推進、SDGs、市民エコ会議さんに関り、市民エコ会議から学校に講師を派遣していただき、昨年度うちの学校でも授業を行なっている。こういう機会を通して、子供たちの力は大きくて大人に働きかけることができると思う。啓発動画も作成されているので、これを機会に見て、職員へ話をしていきたい。

バイオディーゼル燃料のことが気になった。現在、恵那市内はどこも回収されているのか。こういうことを子どもたちにも伝えたい。子どもたちはラリーも含め車に興味を持っているので、こういうことがきっかけになると思う。啓発していきたい。

■議長（会長） 他にご意見はございませんか。

〔意見なし〕

■事務局 今日頂いた、ご意見を今後の施策に反映していきたいと思います。

■事務局 今後、ゼロカーボンシティの実現や各種計画を見直し、融合していきたいと考えています。資料1、2、3も含め、改めてご意見を頂きたい。特に指標に関するところの意見を頂いたので、そういうところを見直していきたい。その他でまだご意見があれば頂きたいのでお願いします。

■進行（事務局） ご意見はございませんか。

■委員 県の計画も自分に帰ってくる意見になるが、県にも環境基本計画、地球温暖化対策計画など、県バージョンのものを作っている。恵那市の職員の方もそうだが、時間をかけて調査して委託していろいろな形で立派な計画を作ると思うが、作った後の広報を、県も同じだが、計画を作ってホームページに載せて終わりになっているものが多い。県民、市民への環境基本計画の周知が難しい。興味を持っている人は見るが、それは一部の方で、広く知られているとは言い難い。今度、改正されたら、こういう計画も、一般の人にもどう広めていくかについて工夫できると良い。

■委員 資料11ページ、令和6年度の取組のSDGs協議会の交流会について。ここで成果として上がってきたのが、東栄製紙と恵那農業高校の営農科のコラボで、東栄製紙が紙

のポットを今後作り、それをもう少し研究して作れば、それを販売して農高でもそれに苗を植えてそのまま植えられる、地球に還るということがある。こういう交流会は今、加入団体に呼び掛けてやっているが、小学校、中学校など広範囲でやさしいSDGsという交流会ができたなら私は考えている。大人になってからだとなかなか頭に入ってこないが、小学校、中学校の生徒なら新しい発想が出てくると思う。各学校で取り組んでいると思うのでそういう交流会でも良い。幅広い人を対象にしたSDGsを考えていくといいと思う。

農業高校は黒いシートを回収して焼却するのに40万円かかるが、それは資源になると東栄製紙が言った。40万円がタダになる。こういうところで交流会をすることで課題が見えてくると思う。参加者は驚いて、ぜひ推進してほしいと言っていた。幅広い中での、環境問題に誰もが取り組めるといいと思う。

■委員 事業者の立場から提案する。私は環境情報委員会の委員長をやっている。環境に対する取組を事業所で聞いたところ、結構やっている。弊社は太陽光発電設備を設置しているし、小さい飲食店はLED照明に交換したりしている。LED照明に換えたのは補助金のため、製造業が太陽光発電設備を設置したのは、今後、取引条項の一環となる可能性があるのを先取りしたり、電気代が高いからちょっとでも安くし、7、8年でペイできると思い始めた。環境よりお金のことを考えて始めたが、結局、環境に返ってきていると感じる。

そのあたりの事業所の取組が目標値にあまり反映されていない。反映できる仕組みを取るともっとカーボンニュートラルと環境面により良い方向にもっていけると思う。その辺を市内事業者と協議いただきたい。

■議長（会長） 先日、郡上八幡で森づくり推進会議があり、行ってきた。郡上は人口減少を食い止めるため、森林サイドで、地域材で住宅を建てることに補助を投じていこうとしている。郡上に住み着いてそこで子育てすると増やそうという施策を打っている。少し前まで日本で木材で住宅を建てようとする、レッドウッド、ホワイトウッドというヨーロッパの材を使っていた。その前は米松を使っていた。改めて考えると、同じ値段でも、化石燃料を使ってヨーロッパから日本に運んで来て家が建てられているなら、地元材で家を建てた方が脱炭素的には良い。ウッドマイレージという考え方。

それと一緒に、教育はすごく大事だと思うが、わざわざ遠くのものを仕入れて消費するより、近くにあるものを消費した方が脱炭素に効いてくるので、そういう教育、広報をもう少し組織的にやると良いと思う。なるべく移動が少ないものを消費する恵那にした方が、恵那の特徴も出て良いと思う。

他にご意見はございませんか。

〔 意見なし 〕

では、議事を終了します。進行を事務局にお返しいたします。

8. その他

■事務局 チラシを配布させていただきました。LED照明への交換と、脱炭素スクールの募集も行なっている。お声掛けにご協力いただきたいのでお願いいたします。

林政課からの説明がございましたが、本年8月よりG-クレジットを販売開始いたします。市内の事業者の販売、購入していただくと、市内の森林吸収が進みますので、積極的な購入をお願いします。

■委員 私、G-クレジットの委員をやっていて、G-クレジットの販売に関して、岐阜県は県の入札に参加するとき、G-クレジットを購入しているとプラスアルファの加点がいただける仕組みになっている。恵那市ではどうか。

■事務局 恵那市では加点方式のポイント制度の入札はございませんが、県の入札には有利になるので積極的に購入してほしいと考えております。

■進行（事務局） 次回は、12月に第2回を開催する予定だが、改めて案内させていただきます。本日の会議で発言できなかったことがあれば環境課へご連絡ください。

これで終了させていただきます。

〔 閉 会 〕